

地域再生計画 事後評価書

「歴史・伝統と地域の資源を生かした観光・交流まちづくり振興計画」
(道整備交付金事業)

平成24年5月

福島県二本松市

地域再生法に基づく地域再生計画の事後評価

1. 地域再生計画の概要

計画名称	歴史・伝統と地域の資源を生かした観光・交流まちづくり振興計画
作成主体	福島県・二本松市（旧二本松市、旧安達町、旧岩代町及び旧東和町）
計画区域	二本松市の全域
計画期間	平成17年度～平成21年度
支援措置	地域再生基盤強化交付金（道整備交付金）
認定日	平成17年 6月17日
計画主旨	<p>平成17年12月1日に1市3町（旧二本松市、旧安達町、旧岩代町及び旧東和町）が合併した二本松市は、福島県の中通り地方の北部地域に位置し、奥羽山脈と阿武隈高地に囲まれ、中央部を阿武隈川が流れ、流域沿いは沖積層の肥沃な土壌を形成している一方、東西の山間部は標高300m～500mの区域に耕地が散在しているものの、農林業を基幹産業とする農山村地域である。</p> <p>古くから歴史的なつながりがある地域であるが、合併により地域間のスムーズな結びつきや一体性の確保、地域特性を生かした活力ある産業の振興のため、道路体系整備によるアクセス改善がより強く求められている。</p> <p>このため、地域の重要なインフラである道路網の効率的な整備を行うとともに、豊かな自然環境から育まれた農林業を中心とした地域資源及び多様で豊かな各観光拠点施設のネットワーク整備と誘客活動の強化を図り、観光交流客の大幅な入込増加を目指す。また、道の駅等の直売施設をより積極的に活用することにより、農林業、商業などの地域産業の活性化を図り、歴史・伝統と地域の資源を生かした観光・交流のまちづくりを行う。</p>

2. 地域再生計画に記載した目標の達成状況

	目標とした内容	従前地(H17)	実績値(H21)	評価
目標1	道路、農道整備による沿線住民の市街地へのアクセス改善（5分短縮）	20～45分	15～40分	達成することが出来た。
目標2	道路、農道整備による観光拠点への入込人数の増加（10%増）	125,000人	164,741人 （31%増）	達成することが出来た。
目標3	道路、農道整備による農産物直売額の増加（10%増）	168,000千円	232,870千円 （38%増）	達成することが出来た。

3. 目標を達成するために行った事業（支援措置を活用した事業）

市道（旧市町道）及び広域農道

路線名	事業期間	事業量	事業費	交付金
市道鈴石中央線	H17～H20	L= 985m	199,000 千円	99,500 千円
市道戸ノ内線	H17～H19	L= 900m	145,100 千円	72,550 千円
市道与市ヶ作線	H17～H21	L= 743m	83,500 千円	41,750 千円
市道赤坂山田・尻線	H17～H21	L= 1,100m	157,400 千円	78,700 千円
市道南戸沢線	H18～H21	L=1,000m	270,000 千円	135,000 千円
広域農道安達東部線	H17～H21	L=2,485m	1,315,100 千円	657,550 千円

4. 総合評価及び今後の方向性

地域再生計画に基づく、市道と農道の一体的な整備により、効率の良い基幹道路のネットワーク化が図られ、合併した新二本松市の地域間交流はもちろん、誘客活動の強化、観光交流客の増加及び農産物直売活動の促進につながり、当初掲げた目標を達成することが出来た。

しかしながら、本計画による事業の実施後、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所の事故により市民の生活と財産は甚大な被害を受け、放射能の不安から若い世代の流出により地域の将来が脅かされている地区があるなど、地域の再生がより困難な状況に置かれている。

今後は早急に安全・安心な地域社会の再構築を図り、地域経済の持続・発展、市民の意欲と能力が十分に発揮される協働の取組による地域再生が求められており、本計画に掲げた歴史・伝統と豊かな自然環境から育まれた農林業を中心とした地域資源及び多様で豊かな各観光拠点施設を活用して、魅力ある観光・交流のまちづくりを行う。